



「西神タベルル・タウン構想」

あらゆる世代の住民にとって共通 (Common) の話題である「食べられる植物」を、地域内の公共空間・学校・戸建ての庭・マンションのベランダなどに「植え」「育て」「収穫し」「加工し」「販売し」「消費する」。これらのプロセスを通じて、コミュニケーション・学びの場・ビジネス(雇用)の場を創出する。

2. 目的

「住み続けたいまち、住んでみたいまち」

住民にとっては「住みやすく、ずっと住み続けたいまち」、外部の人からは「魅力的で、住んでみたいまち」を目指す。

3. 内容

(1) どんな「食べられる植物」を植えるのか？

まずは(平成 28 年～)は、「オリーブ」「ハーブ」

(2) なぜ「オリーブ」？

①神戸は日本のオリーブ栽培発祥の地である。(明治 12 年に北野に国営のオリーブ園設置)

神戸港 150 年のポスターアイテムの一つにもなっている。

②神戸の気候に合っており、育てやすい。

③実・葉・枝など全ての部分が食物として活用でき無駄がない。また、オイルは食物用・工業用として利用可能であり、加工品のバリエーションが広い。

④オイルや加工品は健康や美容に良く、時代のニーズにマッチしている。

⑤「学ぶ」にあたっては神戸市中央区北野地区や神戸大学、「育てる」際には西区押部谷地区の農家、「加工」については工業団地、「販売」については西神中央駅前の商業施設など、近隣や神戸のさまざまなステークホルダーをつなぐことにより、新たな展開が期待できる。

⑥竹の台小学校と姉妹提携している西オーストラリア州キングストン小学校の近郊にもオリーブ園や加工場・ショップがあり、地域ぐるみの国際交流・ビジネスアドバイスが期待できる。

(3) どこに植えるのか？

・オリーブ：地域福祉センター外周 ・公園 ・学校 ・個人の庭やベランダ

・ハーブ：コミュニティ喫茶「たけのパーク」前の花壇→だれでも採れる

(4) 誰がやるのか？

・竹の台地域委員会(環境部・事業部・防災防犯部・子ども部)が地域住民に声をかけて「プロジェクトチーム」を立ち上げる。(H28) プロジェクトのプロデュースを外部委託する。

(5) どのように進めていくのか？

プロジェクトチームで実施計画を策定する(H28)。同時並行でできる活動を実施していく。

4. 期待される効果

交流の場ができることで、近所に知人が増え、会話が增え、居場所ができ、楽しみが増え、活動が増え、健康寿命を延ばすことが期待できる。高齢世帯や子育て世帯の生活上のちょっとした問題は、近隣住民が知恵や力を出し合い、簡単に解決できるようになるかもしれない。魅力ある活動・生活上のサポート・雇用の場を創出することで、若い世代を呼び込み、持続可能なまちづくりが期待できる。

※企画のきっかけ

◆平成 28 年度 神戸創生会議

革新的な経営者・専門家によるセミナー、神戸の行政課題について考えるワークショップ等を通じて、多様な人たちとの交流、イノベーションを促すことで、神戸のまち・経済を活性化させる新たな事業アイデアの創出、参加者自身による事業アイデアの具現化（起業・第二創業等）につなげていくことを目的とし、平成 27 年度から実施。

今年度は「ライフステージに合わせた“新たな働き方”～女性の働きたいをかなえる～」をテーマに 3 回構成で開催された。

この会議に、竹の台地域委員会役員の森川と濱が参加。ワークショップで、子育て中の女性や子育てが終了した女性が働く場が地域の中にできないかアイデアを出す中で、生産の要素のないニュータウンで、戸建て住宅の庭などにレモンの木を植える取組をしている泉北ニュータウンの事例や、まちの中の公共空間に食べられる植物を植えて住民同士の交流を図り、今では世界中から視察が来るぐらい有名になったイギリスのトッドモーデンという小さな町の事例～エディブル(食べられる)ガーデン活動～について、同じグループの大阪ガス都市魅力研究室 山納洋さんからお聞きした。

竹の台地区で 10 余年地域活動を行ってきた経験と、先進的な地域活動をされている方々の話を聞く中で、これからの竹の台地域の方向性について、

- ①使い方が限定され、申請や報告に労力がかかる役所の助成金を使うのではなく、地域で本当に必要な活動を自力で行えるような経済力をつけたい。(竹の台 5 カ年計画目標「自立と自律のまち」)
- ②自治会の交流活動が衰退している。いろいろな世代が共通に取り組める楽しい活動を見つけ、活動に出てくる人の人数を増やしたい。また、住民同士の交流も活発にしたい。
- ③①と②を同時に満たすような活動があれば、住民にとってもメリットが実感しやすく、活動の支持が得やすいのではないかと考えていた。

「西神タベル・タウン構想」の活動は、それにぴったり当てはまる。

竹の台地区では来年度から早速取組を開始するが、この活動が竹の台地区のみに留まるのではなく、西神ニュータウン全体、近隣の農村地帯、工業団地、地域内の大型商業施設に広がり、連携することで、「持続可能な地域」の実現が高まることが期待される。

